

ピレリ・スーパー耐久シリーズ 2019
第6戦 岡山国際サーキット



東 徹次郎
TOHJIRO AZUMA

速さを見せられた予選は過去最高位を獲得！！

表彰台を目指した決勝はトラブルに沈むも粘りの完走！！

- ・開催サーキット：岡山国際サーキット（3.703km）
- ・レース時間：3 時間
- ・チーム：T's concept
- ・マシン：T's concept 86 (TOYOTA86)
- ・カーナンバー：＃28
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A 東 徹次郎 B DAISUKE C 森山 鉄也



公式予選（11月9日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

レースウィークから好天に恵まれていた岡山ラウンド、朝は空気も冷たく路面温度が冷えていて、日中は暖かいという寒暖差のある天候で予選を迎えました。

前日のプラクティスでは、午前中良かったセットのまま午後 New タイヤを入れたらアンダーステアがひどくなってタイムを落としていたので、予選ではその気温差を考えて朝のウォームアップから微調整を加えて予選に臨みました。

ピットが1コーナー寄りなのでコースインは2台目で出られました。

86号車か884号車に合わせてアタックしようと考えていたのですが、86号車が割とスロー走行でタイヤの熱入れをしていたので、後続車が追いついてきて大混雑となり、位置取りに苦労しました。

いつもより1周多くタイヤに熱入れをし、884号車、86号車に続いてアタックに入ります。

最初のアタックはまだタイヤのピークが来ていませんでしたが、この週末の自己ベストを更新します。

そして2周目がピークでした。

この周に43秒860を出し、次の周もアタックしましたが若干タイヤのピークも終わっていて44秒0でした。

1位には僅かに届きませんでしたが、Aドライバー予選を3位で終えることが出来ました。

トップ3台のみ43秒台なので、大きな自信となる予選になりました。

Bドライバー予選のDAISUKE選手も練習では悩んでいたものの、この予選で大きくタイムアップに成功しクラス9位で予選を終えました。

これによりA・B合算で過去最高位の4位を獲得しました。

Cドライバー予選の森山選手も安定したタイムで走行し、マシンのフィーリングも良いというフィードバックもあったので、良い内容で予選を終えることが出来ました。

予選結果：4位 3'28.930（A・B合算タイム）

A：1'43.860 B:1'45.070



決勝（11 月 10 日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

2 クラス制の岡山ラウンド、我々のグループは午前レースなので 8 時半スタートという早朝からの 3 時間レースです。

スタートドライバーは DAISUKE 選手。

まだまだ気温も路面温度も低い為、タイヤの熱が入り切るまでの最初の数周は難しいコンディションとなります。

今回チーム最高位の 4 位からのスタートで、DAISUKE 選手はポジションをしっかりと守り 1 コーナーに入ります。

周りのチームの多くはプロドライバーがスタート担当なので、コールドタイヤ時の最初の数周はポジションを落としてしまいます。

しかし熱が入り切るとタイムも安定し、しっかりと中断グループについて行けていました。

そしてポジションを一つ戻し、森山選手へと交代します。

森山選手のときはタイヤ交換をせずそのままコースへ。

リアが滑って厳しい中、安定したラップで走行を重ねていきます。

しかし最後まで無交換は厳しそうということで、自分が乗り込む時はリア 2 本のタイヤ交換ということに作戦を変更しました。

DAISUKE 選手 40 分、森山選手 40 分と繋ぎ、残り 100 分を任されて予定通り自分がコースへ。

ここから追い上げて表彰台へと気合いを入れていた矢先でした。

約 10 周した 1 コーナー出口で突然トラクションがかからなくなり、真っすぐ走らなくなりました。

左のドライブシャフトが折れてしまったのです。

このアクシデントにより緊急ピットイン、戦線離脱となりました・・・。

勝負権は失ってしまいましたが、メカニックさんたちの迅速な作業で復活し再びコースへ。

ここからマシンを完走させることも意識しながら全力でプッシュし続けました。

残念ながら前とのギャップは大きかったですが、最後までプッシュしていたので周回遅れではありますが前を走っていた優勝の 13 号車に追い付くかたちでチェッカーを受け、8 位完走で最終戦を終えました。

決勝結果：8 位（自己ベストタイム：1'45.9）



反省

今回は走り出しの初日から良い方向にセットアップを進めることが出来ました。

また、路面温度の違う朝の路面と昼の予選の路面に対してのアジャストもしっかりと合わせこむことが出来たと思います。

自分の感じた部分をメカニックさんに伝えて意見交換し、どう変更するか決めていたのですが、感じる・伝えるという部分を含めてこの一年でセットアップの面でも成長出来たという自信になりました。

予選では今回しっかりとした速さも出せたことがチームの最高位にも繋がりましたし、最終戦でまとめることが出来ました。

ただトップには届かなかったので、足りない部分を反省研究し、しっかりと次に繋げていきたいと思っています。



最後に

今回のレースもたくさんのご支援ご声援、有難うございました。
岡山は毎年調子が良いのと最終戦ということもあり、気合いを更に入れて臨んだのですが、今年もトラブルで結果に繋がらなかったことは本当に悔しいです。

しかし、予選ではチーム最高位という結果も出せ、自分としても速さがあったので自信になりましたし、素直に嬉しかったです。

今回のレースもトップ3はオールプロドライバー組のチームだったので、今シーズンもその牙城を崩せず表彰台に立てなかったことは本当に悔しいですし残念です。

今年は良い内容のレースのときにトラブルなどが起きてしまい、結果に繋がらず運がありませんでした。

ただ、この3年間この大きな環境のチームでAドライバーとして戦えたことは大変勉強になり、自分の成長に繋がったと思っています。

来年のことは未定ですが、また皆様に良いご報告が出来るよう、シーズンオフもしっかりと活動していきたいと思います。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

改めて、一年間応援有難うございました。

2019年11月16日

東 徹次郎

